



一九五四年の ベストホース 松波遊平

旧職、啓蒙社の競馬週報の催しで、昭和二十九年の最良の馬が選ばれたという記事が、スポーツ新聞の一隅に出ている。その後、駅の売店でその雑誌を見かけたので、買求めて一読したが、年度代表馬がハクリヨウをはじめ、各クラスともそれぞれ選ばれた馬は、いずれも昨年中に印象にのこる活躍をした馬なので、あらためてその活躍のあとをふりかえつて見るのは、なかなか興味深いものがあった。

選ばれた顔ぶれの当否については、人によつていろいろ意見も分れるだろうが、それもまた一興で、馬ずきの正月には、好個の話題を提供してくれたものだつたといえよう。

大体この種の催しは、もちろん英米その他の競馬先進国の例にならつたもので、我が国でもとうとう試みられてよかつたもので、このような企画に進んで先鞭をつけた行き方には、大いに賛意を表するものである。幸いに、とうとう企画が一般ファンにも歓迎されて、競馬といふものへの正しい認識が高まつていけば、

ダンサーに次いで二位に入つた位だから、このクラスで代表に選ばれたのは当然であつた。

この馬は、仕上りおくれで、ダービー当時までは殆んど注目されていなかったが、その後急ピッチで躍進して第一線におどり出して来たもので、三大クラシックの最後、ベルモント・ステークスでは、遂に人気のフィッシュヤーマンを頸の差で破つて金的を射止めた。キングランチの所有馬であるが、実はキーンランドのせりで、僅かに一万二百円で購買されたものだという。

三才時以来の獲得賞金の総額は三十一万四千五百五十円(約一億一千三百万円)であるが、その成績は、三才時一着二回、着外一回、四才時一着三回、二着三回、である。

ダービーに勝つたデターミンは、僅かの差で次点となり、ワシントン国際レースの覇者フィッシュヤーマンは三位であつた。

さて、こちらでこのクラスの代表に選ばれたダイナホウシュウと比較して見ると、どちらもダービーに勝つて菊花賞に勝つた点では相似たものであるが、ダイナホウシュウの方が、さつき賞にも勝つているだけに、四才時を通じての成績(十戦六勝、二着二回、三着四着各一回)では、大分勝つているように思われる。

まことに結構なことといわなければならぬ。

そんなことを考えているところへ、たまたまあちらから「ターフアンドスポーツ・ダイジェスト」の一月号が届いた。

ひらいて見ると、期せずして巻頭に、同誌の選んだアメリカにおける一九五四年のベストホースが発表されている。われわれにとつては、少しばかり縁の遠いかなしで、比較するというのもどうかと思われるが、試みにこれを我が国の代表とならべて見るのも一興に思うので、以下順を追つて紹介してみたいと思う。

その前に、むこうの選定方法を説明すると、まず非常に多方面の人々の投票制によつたものであるということである。

この点、こちらの選考が比較的少数の専門家の合議制によつたものとは、根本的にちがつている。具体的にいえば、あちらのは、全国各新聞、雑誌、放送関係等の競馬担当者、その他の競馬関係者等、無慮百七十四人の専門家に委嘱して、その投票を集計したものである。その投票の方法は、年度代表馬につい

最良の五才(以上)馬

これには、年度代表馬となつたネーティブダンサーが、当然選ばれた。次位はベットブリー、三位はリジエクテッドとなつている。なおアメリカでは、五才以上の代表馬には、牝牡の区別を設けていない。

最良の三才牡(騾)馬

父 ナスルラ
母 セグラ
母の父 ジョンスタウン
このクラスでは、似たりよつたりの成績の馬が数頭あつたため、投票はすこぶる接近したものとなつた。結局、ベルモント・フューリチティをかも取つたナスルラが、四四五点で代表馬となつたが、二位サンマータンは三六七票、三位はやや離れて一〇八票のロイヤルノートに落ちた。

この順位は、たまたまフューリチティ

・レースの着差と一致するものがあつたのは、面白い符合である。

こちらでもこのクラスの選考では、関東のメイヂホマレと関西のライデンオーとの間で激しいせり合いが演じられたらしい。

なにごん競走経歴の少ない三才馬の

難なわざであつて、見解の分れるのは当然のことだろう。われわれの興味は寧ろ、

ては単記一票を、各クラスの代表馬については、一、二、三位まで三頭を選ばせ、その得点を集計して、最高点を得たものをベストホースとしたのである。非常に公平な方法ともいえるし、また一種の人氣投票的色彩も加味されているように感じられるが、一般の関心と呼ぶためには一つの方法であると思う。

さて、こうして選ばれた一九五四年度のアメリカの最良の馬は次の通りである。

年度最良の馬

父 ポリネシアン 母 ゲイシャ
母の父 デイスカバリ

改めていうまでもなく、ネーティブダンサーは、近年のアメリカ競馬にちよつと比較するもののない成績を上げた馬である。その美しい芦毛は、年齢を加えると共にますます輝きを加えて、真に名馬と呼ばれるにふさわしい気品を具えるに至つた。昨年度は、僅かに三戦したにすぎなかつたが、その三戦に完勝して、底知れぬ強みを示すと共に、圧倒的の得票をもつて代表馬に推された。この点、わがハクリヨウが、五戦五勝の成績で代表馬に選ばれたのと、軌を一にするものがある。

ネーティブダンサーの昨年度の競走のうち、特に美事だつたのは、ベルモント・

これらの評判の高い馬が、年を加えて四才馬となつて、果して同じように首位を争うことになるや否や、というところにある。

アメリカの方の例を見ても、前年度三才馬として上位を占めた五頭の中、四才馬となつて依然上位に残つたのは、僅かに三位のフィッシュヤーマンと、五位のターニツウのみである。ダービーの覇者デターミンも、ベルモント・ステークスの勝者ハイガンも、三才時にまだその鋭ほうを現わさず、ベストテンにも入つていなかったのである。

最良の三才牝馬

父 アンボア
母 ダイナモ
母の父 メノウ

近年アメリカの競馬界に一つの異変が起つている。それは、サラブレッドには数少ない芦毛の中から、名駿が続々と現われて来たことである。ネーティブダンサーのことは既に書いた。つづいて今年のダービー馬デターミンがそうであつた。

そしてまた、ここに三才女王に選ばれたハイヴォルテジが、不思議にも芦毛である。ちよつとした芦毛ブームといえるだろう。

ハイヴォルテジのこれまでの成績は、十二回出走して一着六回、二着二回、

パークのメトロポリタン・ハンデキャップの時、この時は、一三〇封度の重量を背負つて得意の待機戦法に出、最後の一ハロンに電光の追込みをもつて一瞬の勝を制したのであつた。

ダンサーの絶大な人氣のもと、この強烈極まる追込みの迫力にあるといわれ、テレビの発達しているアメリカでは、競馬場へ行かぬ者でも、馬群をわつて出る芦毛の名馬の名を知らぬものはないといわれている。

ネーティブダンサーの三才時からの通

算成績は、二十二戦二十一勝、たつた一度二着になつたのがダービーであつたのは周知の通りである。獲得賞金の総額七十八万五千二百四十円(約二億八千万円)とは、まつたく驚くの外なく、これをかのマンノウアやアラウエイの如き過去の名馬に比較しても、優るとも劣るところなしといふべきだと思ふ。

昨年中、惜しくも脚部故障のため引退して、蕃殖生活に入るに至つたが、その産駒は今から大きな期待をかけられている。

最良の四才牡(騾)馬

父 ヘリオポリス
母 ロケットガン
母の父 ブラザド

最良の四才牡馬に選ばれたハイガンは、年度代表馬の選考でも、ネーティブダンサーに次いで二位に入つた位だから、このクラスで代表に選ばれたのは当然であつた。

三着三回、獲得した賞金は三才の終りで既に十六万七千八百二十五円(約六千万円)に上つている。これだけ働いたという事は、よほどがんばんな馬と思われが、これが果して四才となつてどう響くか、別な関心を持たれるところである。

ともあれ、これをこちらのナンバトワ

ン、ケンホウの四戦三勝、賞金六十七万円に比較して見ると、ちよつとけたがちがいで、お話にならないようである。

二位はデルタ、三位はミートルスジュットであつた。

(筆者は競馬ファン)

あなたの靴には
コンパス
靴クリームを
株式会社コンパス製品